

はしがき

本書は、東アジアの平和と安定を確保するためにはこの地域の安全保障環境について客観的な理解が必要であるという認識に基づき、自由な議論の題材をこの地域の専門家に対して提供することを目的として、防衛研究所の研究者が独自の視点から東アジアの安全保障環境を分析したものである。記述の対象期間は、2004年1月から12月までの1年間が中心である。

本書は、2004年に生じた東アジアの安全保障上重要な事象について、国・地域別に章を立てて記述した。そして、この地域の安全保障を考える上で重要と思われる中長期的な課題についても、トピック章として分析している。今回は、第1章で、東アジアにおける安全保障上の脅威となりつつある海上テロの問題と、これが大量破壊兵器等の拡散をさらに進める危険性にも焦点を当てつつ、この地域の不拡散に関する取り組みについて分析した。同じくトピック章として第2章では、この地域の安全保障に重要な意義を有する東アジア共同体の形成の可能性と形成に向けた日本のリーダーシップの在り方について分析した。そのほかにも本書は、北朝鮮の核問題、胡錦濤政権下での中国の内外政策、東南アジアのテロや対米関係、第2期目を迎えたブーチン政権の課題、米国のトランスフォーメーションと全地球規模での軍事態勢の見直し、日本政府が決定した新「防衛大綱」などについても分析を加えている。本書が、読者にとって東アジアの安全保障環境を理解する一助となり、議論をさらに深める契機とすることができれば望外の喜びである。

なお、本書は、防衛研究所の編集・執筆グループが研究者の立場から作成したものであり、政府あるいは防衛庁の見解を示すものではない。各章の執筆担当者は、恒川潤（第1章第1節）、小川伸一（第1章第2節）、増田雅之（第2章）、室岡鉄夫（第3章第1節および第2節）、渡邊武（第3章第3節）、松田康博（第4章第1節および第2節）、鴻上富男（第4章第3節）、庄司智孝（第5章）、兵頭慎治（第6章）、上野英詞（第7章）、菊地茂雄（第8章）である。また編集作業は、恒川潤（編集長）以下、菊地茂雄、富川英生、増田雅之、山下光、渡邊武が担当した。

平成17年（2005年）3月

防衛庁防衛研究所 統括研究官
近藤 重克